



博多港・福岡空港の概況

令和4年3月
福岡市港湾空港局

= 目 次 =

第1章 博多港の物流

- 1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） … P.1
 - （1）取扱個数の推移
 - （2）令和3年の取扱個数減少の主な要因
 - （3）貨物の内訳
 - 【参考：国内主要港との比較（令和2年）】
- 2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 … P.6
- 3. 海上出入貨物（トンベース） … P.7
 - （1）海上出入貨物量の推移
 - （2）令和3年の貨物量増減の主な要因
 - （3）外国貿易
 - （4）内国貿易

第2章 博多港の人流

- 1. 船舶乗降人員 … P.10
 - （1）船舶乗降人員数の推移
- 2. うち外国航路船舶乗降人員 … P.11
 - （1）外国航路船舶乗降人員数の推移
 - 【参考：国内上位5港の推移】
- 3. クルーズ船の寄港回数 … P.12
 - （1）クルーズ船の寄港回数の推移

第3章 博多港の入港船舶

- 1. 入港隻数及び総トン数 … P.14
 - （1）入港隻数及び総トン数の推移

第4章 福岡空港の概況

- 1. 乗降客数 … P.15
 - （1）乗降客数の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】
- 2. 貨物取扱量 … P.16
 - （1）貨物取扱量の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】
- 3. 発着回数 … P.17
 - （1）発着回数の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】
- 4. 路線状況 … P.18

※いずれの表・グラフとも端数処理のため合計が合わない場合がある

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和3年港湾統計速報値】

取扱個数：約 89 万 TEU

外貿ダイレクト：約 81 万 5 千 TEU、内貿フィーダー：約 7 万 5 千 TEU

（1）取扱個数の推移

令和3年の国際海上コンテナ取扱個数は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、輸移出入ともに減少している。

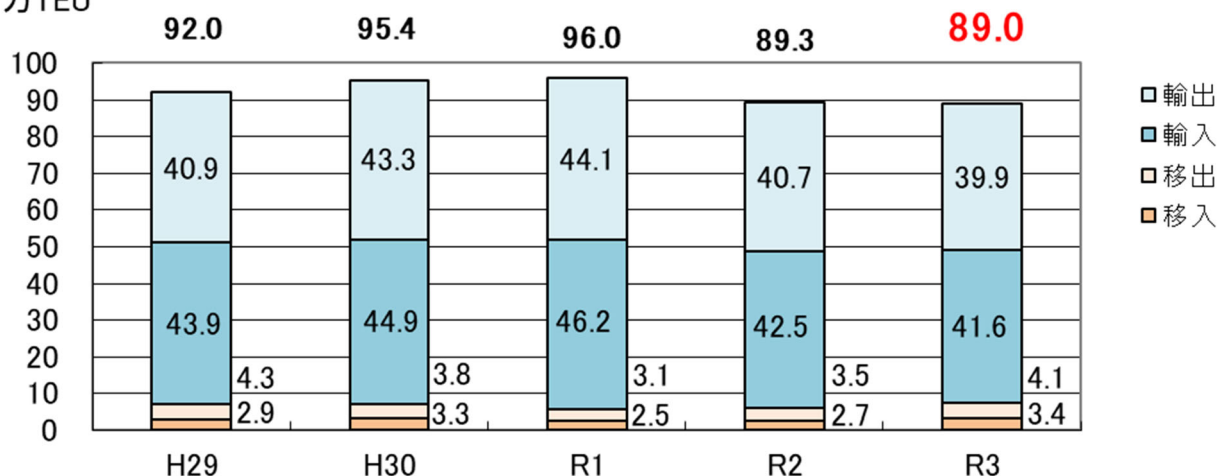
【表 1-1】

（単位：TEU）

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減（R3/R2）	
					数量	数量	前年比
博多港全体	920,149	953,548	960,085	893,301	890,026	▲ 3,275	99.6%
輸移出	451,920	471,276	472,708	441,499	439,944	▲ 1,555	99.6%
輸移入	468,229	482,272	487,377	451,802	450,082	▲ 1,720	99.6%
外貿ダイレクト	848,612	882,199	903,566	832,133	814,998	▲ 17,135	97.9%
輸出	409,217	432,810	441,367	406,913	398,554	▲ 8,359	97.9%
輸入	439,395	449,389	462,199	425,220	416,444	▲ 8,776	97.9%
内貿フィーダー	71,537	71,349	56,519	61,168	75,028	13,860	122.7%
移出	42,703	38,466	31,341	34,586	41,390	6,804	119.7%
移入	28,834	32,883	25,178	26,582	33,638	7,056	126.5%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20 フィートコンテナ換算個数

【グラフ 1-1】
万TEU



（2）令和3年の取扱個数減少の主な要因

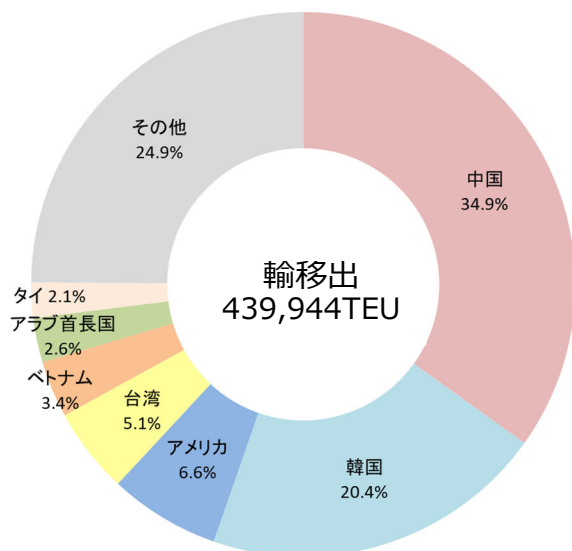
輸移出…完成自動車(同▲9千TEU)や衣服・身廻品・はきもの（前年比▲1千TEU）の減少等
 輸移入…衣服・身廻品・はきもの（同▲5千TEU）や水産品（同▲3千TEU）の減少等

(3) 貨物の内訳

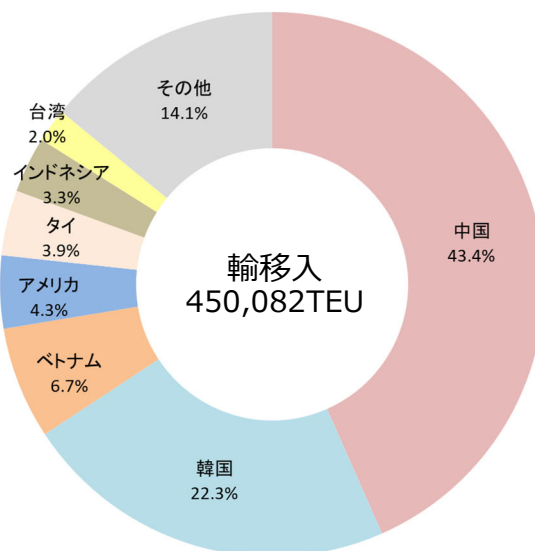
① 相手国別

中国や韓国、台湾などの東アジア地域が、輸移出の約 6 割、輸移入の約 7 割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品（タイヤ等）」や「完成自動車（中古車）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」などの生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位：TEU)

輸 移 出						輸 移 入					
順位	品 種	取扱個数	主な輸出相手国			順位	品 種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	ゴム製品	53,181	アメリカ	アラブ首長国	ロシア	1	家具装備品	51,284	中国	ベトナム	韓国
2	産業機械	21,609	韓国	中国	アメリカ	2	衣服・身廻品・はきもの	36,637	中国	ベトナム	韓国
3	再利用資材	21,531	台湾	ベトナム	韓国	3	動植物性製造飼肥料	36,020	韓国	アメリカ	オーストラリア
4	完成自動車	※18,938	中国	アラブ首長国	南アフリカ	4	電気機械	32,718	中国	タイ	中国 (ホンコン)
5	自動車部品	16,299	アラブ首長国	韓国	マレーシア	5	自動車部品	24,443	韓国	ベトナム	中国
6	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	16,218	中国	韓国	台湾	6	製造食品	21,929	中国	韓国	タイ
7	化学薬品	8,682	中国	韓国	アメリカ	7	その他日用品	15,602	中国	韓国	ベトナム
8	二輪自動車	7,933	アメリカ	ベルギー	韓国	8	木製品	14,677	中国	フィリピン	インドネシア
9	製造食品	6,150	中国 (ホンコン)	台湾	中国	9	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	13,878	中国	韓国	台湾
10	輸送用容器	5,826	韓国	ベトナム	フィリピン	10	金属製品	13,860	中国	フィリピン	タイ

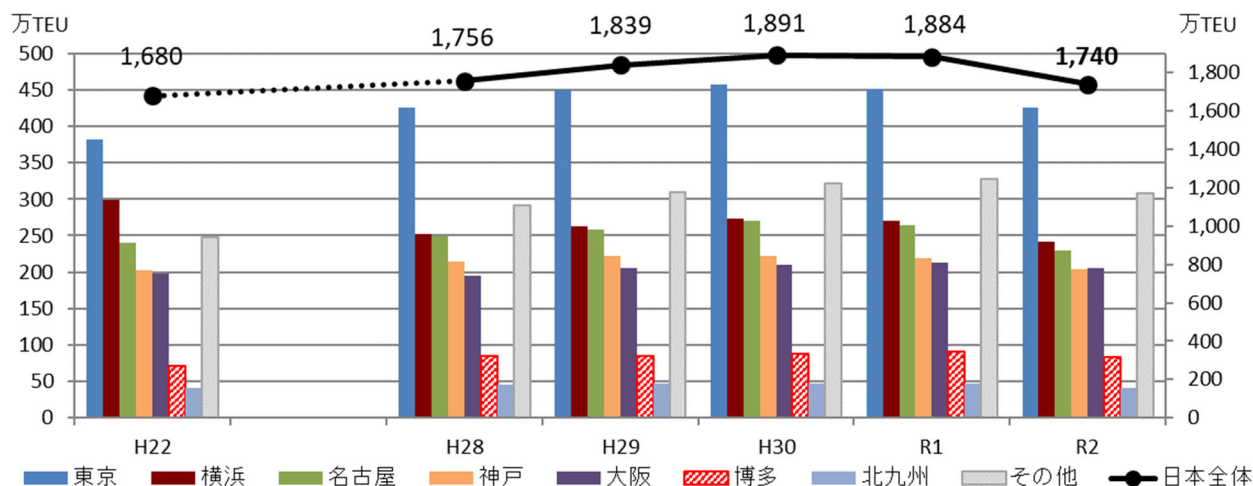
※普通・小型乗用車約 38,000 台に相当

【参考：国内主要港との比較（令和2年）】

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



令和2年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、大阪、神戸、博多、北九州となっている。

年	H28	H29	H30	R1	R2
博多港のシェア	4.8%	4.6%	4.7%	4.8%	4.8%

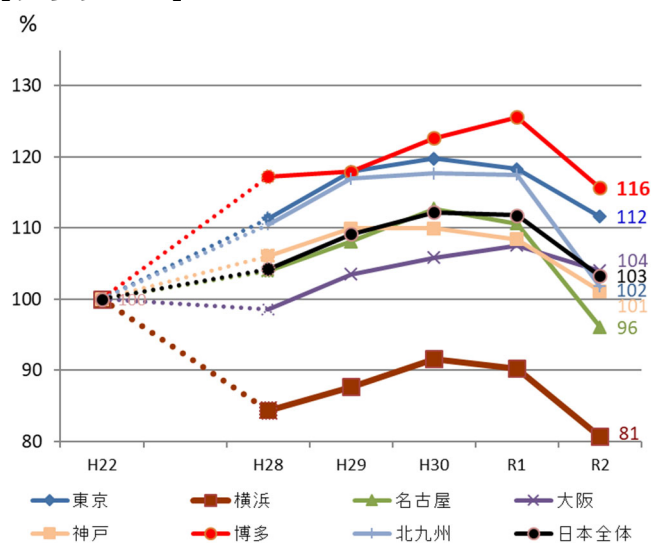
※国土交通省「港湾統計（年報）」より

※令和3年は未発表

② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

令和2年までの10年間で比較すると、博多港の取扱いは日本全体や国内主要港よりも、高い増加率で推移している。

【グラフ 1-5】

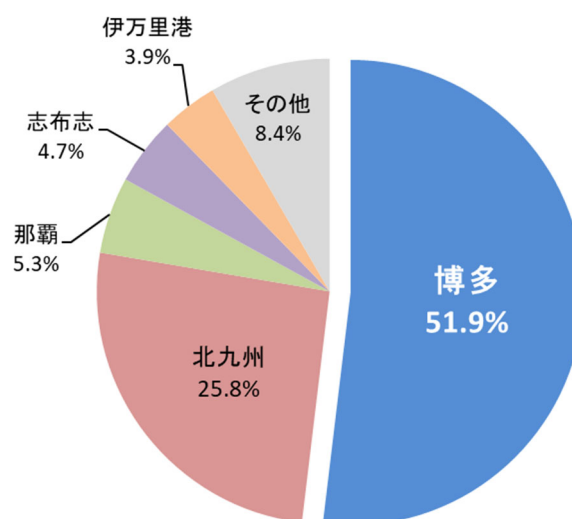


※国土交通省「港湾統計（年報）」より

③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

【グラフ 1-6】



※国土交通省「港湾統計（年報）」より

博多港のコンテナ物流について

<2021 年の国際海上コンテナ貨物動向>

◆国際海上コンテナ取扱個数（1-12 月）

（単位：TEU）

区分	2020年	2021年	増減	伸び率
博多港全体	893,301	890,026	▲3,275	▲0.4%
実入り	634,361	644,429	+10,068	+1.6%
空	258,940	245,597	▲13,343	▲5.2%
輸移出	441,499	439,944	▲1,555	▲0.4%
実入り	213,600	229,148	+15,548	+7.3%
空	227,899	210,796	▲17,103	▲7.5%
輸移入	451,802	450,082	▲1,720	▲0.4%
実入り	420,761	415,281	▲5,480	▲1.3%
空	31,041	34,801	+3,760	+12.1%

◆輸移出貨物における主な増加品目

（単位：TEU）

品目名	2020年	2021年	増減	伸び率
ゴム製品	45,080	53,181	+8,101	+18.0%
二輪自動車	4,240	7,933	+3,693	+87.1%
産業機械	18,708	21,609	+2,901	+15.5%
自動車部品	14,513	16,299	+1,786	+12.3%
染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	14,512	16,218	+1,706	+11.8%

◆輸移入貨物における主な減少品目

（単位：TEU）

品目名	2020年	2021年	増減	伸び率
衣服・身廻品・はきもの	41,906	36,637	▲5,269	▲12.6%
水産品	14,260	11,583	▲2,677	▲18.8%
電気機械	34,686	32,718	▲1,968	▲5.7%
製造食品	23,484	21,929	▲1,555	▲6.6%
その他日用品	16,998	15,602	▲1,396	▲8.2%

2021 年の国際海上コンテナ取扱個数は、実入り貨物は増加したものの、空コンテナが減少した結果、博多港全体でみると前年と同程度の約 89 万 TEU となった。

◆輸移出貨物の主な増加要因

- ・世界的な自動車（二輪含む）需要の回復

◆輸移入貨物の主な減少要因

- ・緊急事態宣言等に伴う外出自粛や、営業時間短縮要請による消費の減少
- ・アジア諸国における新型コロナウイルス感染症の再拡大による生産活動の低下
- ・海外主要港の混雑やコンテナ・船腹不足等による世界的な輸送力の低下

＜輸移出貨物集荷の取組み＞

- 輸移出貨物については、既存荷主を含めた利便性向上を図るとともに、博多港独自の強みを活かし、中長期的な動向等から、下記を中心とした集荷活動を強化する。
 - ・「染料・塗料・合成樹脂等」、「産業機械」など、**中長期的に増加傾向で、近年も増加が顕著な貨物**
 - ・海外ネット通販（越境 EC*）で人気が高く、需要拡大が予想される、日本の高品質な**日用品など**
 - ・国を挙げて輸出強化の取組みが進められている、日本の安心・安全な**農林水産物や食品**

※コロナ禍の状況、物流動向等を注視し、必要に応じて見直しを行う。

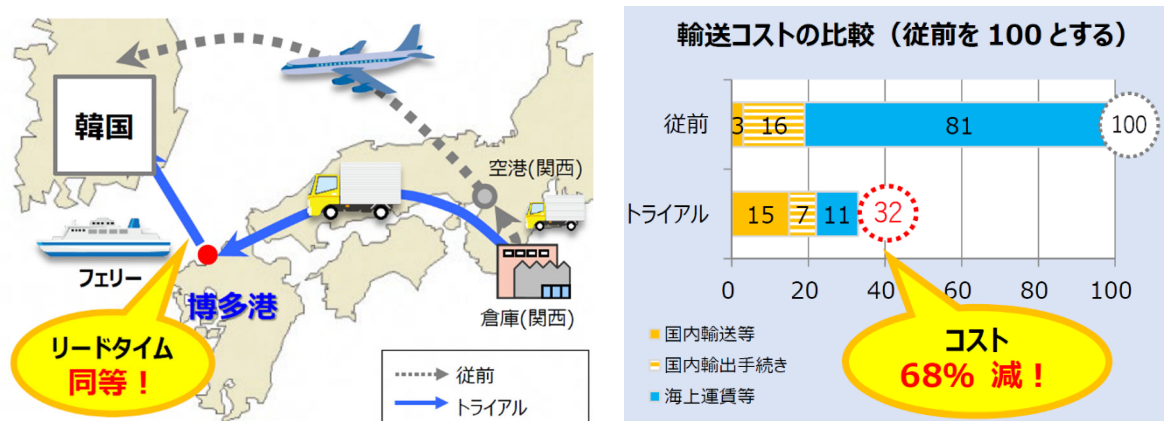
* 越境 EC：インターネットの通信販売サイトを通じて行う国際的な電子商取引（EC：electronic commerce）

＜具体的な取組み事例＞

ターゲットとする貨物を中心とした、船社・荷主企業に対する提案活動に加え、トライアル輸送の支援や、輸出促進に関するオンラインセミナー等を実施。

【トライアル輸送の支援事例】海外ネット通販（越境 EC）商材輸出に係る博多港の活用促進

航空輸送から海上輸送への切り替えによる「物流効率化」により、輸送コストが大幅に削減される等の効果が確認されたため、博多港の本格利用に繋がった。



【オンラインセミナーの開催】農林水産物・食品の輸出促進セミナー

2022 年 1 月 25 日に、農林水産物・食品関係の荷主企業や商社、物流事業者など約 180 名を対象に、オンラインセミナーを開催した。

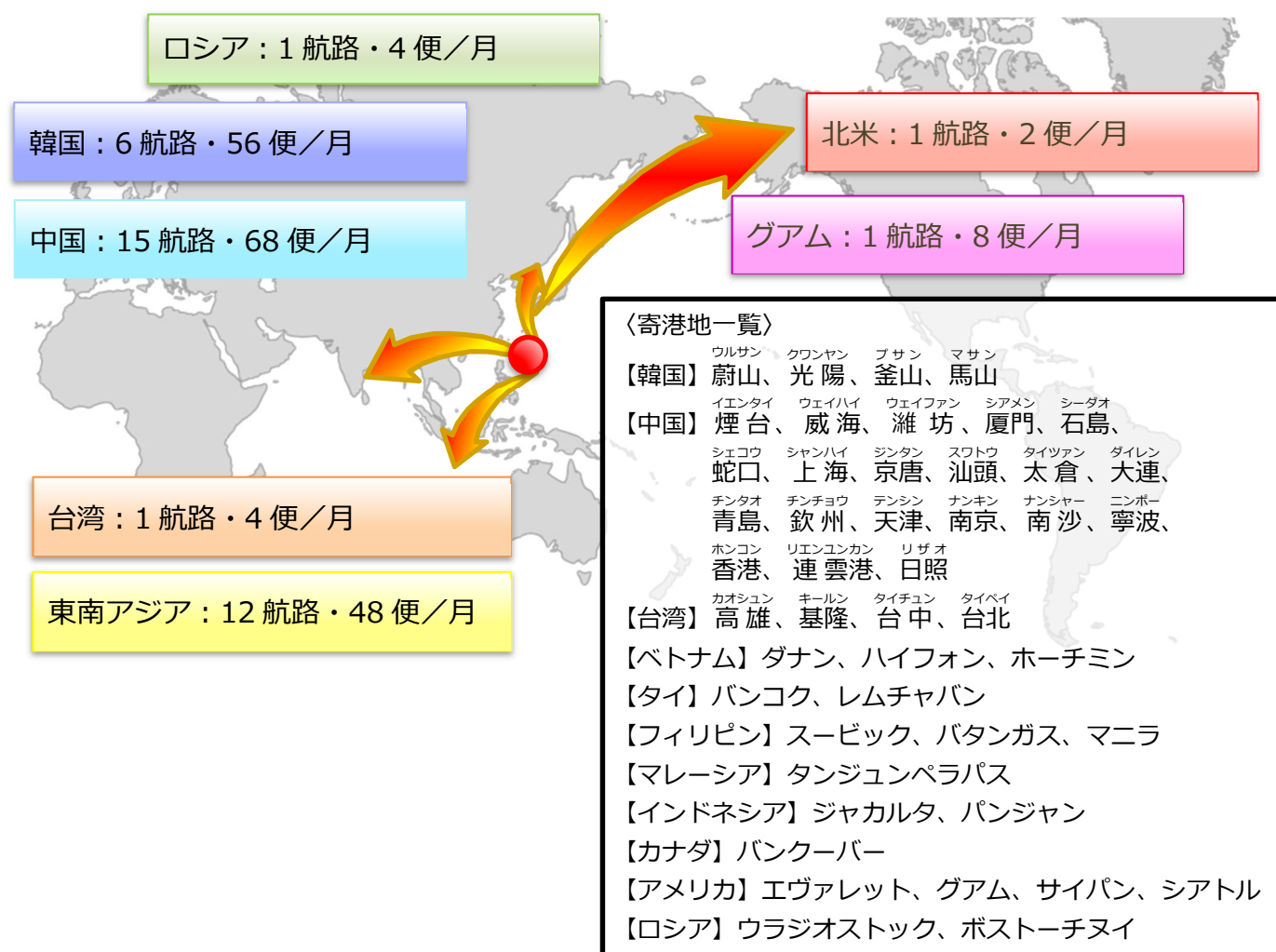
セミナーでは、博多港の多様な航路網や陸海空の輸送モードが集積した交通利便性、充実した冷凍冷蔵施設等、博多港の強みについての PR や事例紹介を行った。



2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

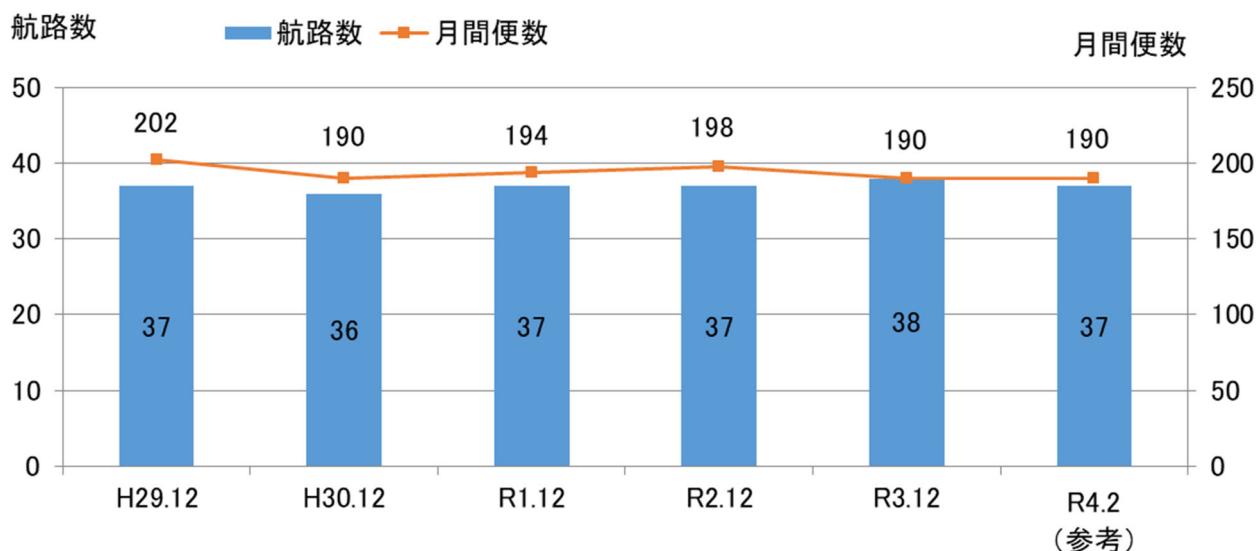
(令和4年2月1日現在)

37 航路・月間 190 便 (11 カ国・地域、46 港とのコンテナ物流網を形成)



■ 国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和3年港湾統計速報値】

約 3,223 万トン

外国貿易：約 1,862 万トン、内国貿易：約 1,362 万トン

（1）海上出入貨物量の推移

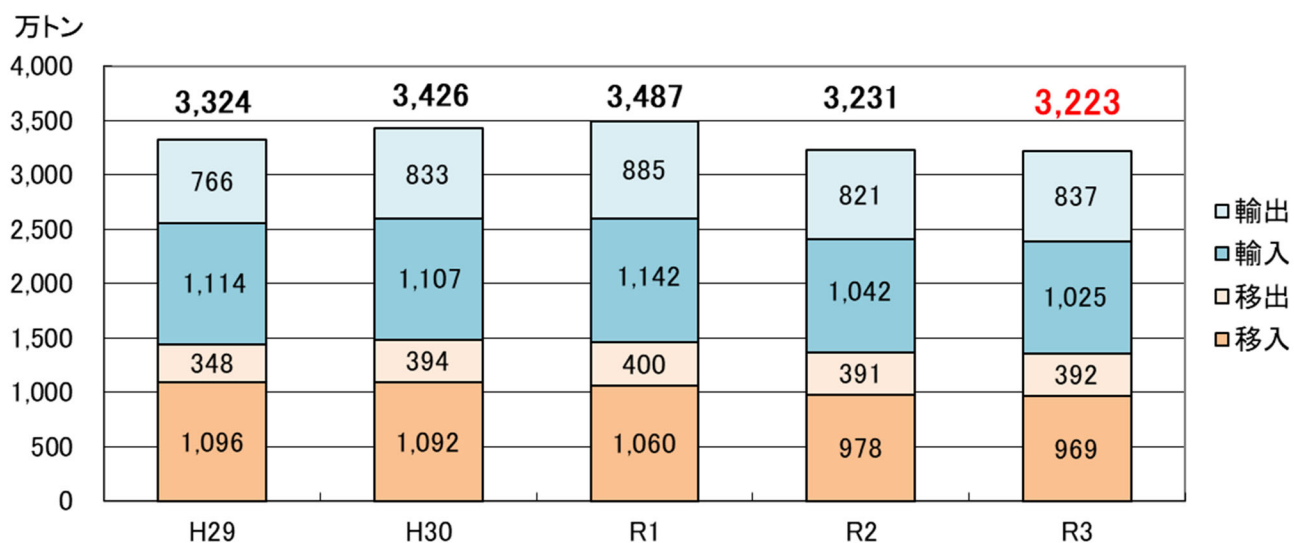
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和3年の輸移出は前年より増加、輸移入は前年より減少している。

【表 3-1】

（単位：トン）

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減（R3/R2）	
					数量	数量	前年比
博多港全体	33,239,832	34,259,778	34,869,325	32,313,714	32,234,325	▲ 79,389	99.8%
輸移出	11,137,938	12,275,552	12,852,443	12,119,745	12,292,115	172,370	101.4%
輸移入	22,101,894	21,984,226	22,016,882	20,193,969	19,942,210	▲ 251,759	98.8%
うち外国貿易	18,795,222	19,400,872	20,275,931	18,624,587	18,619,319	▲ 5,268	100.0%
輸出	7,658,195	8,332,964	8,854,988	8,205,787	8,369,745	163,958	102.0%
輸入	11,137,027	11,067,908	11,420,943	10,418,800	10,249,574	▲ 169,226	98.4%
うち内国貿易	14,444,610	14,858,906	14,593,394	13,689,127	13,615,006	▲ 74,121	99.5%
移出	3,479,743	3,942,588	3,997,455	3,913,958	3,922,370	8,412	100.2%
移入	10,964,867	10,916,318	10,595,939	9,775,169	9,692,636	▲ 82,533	99.2%

【グラフ 3-1】



（2）令和3年の貨物量増減の主な要因

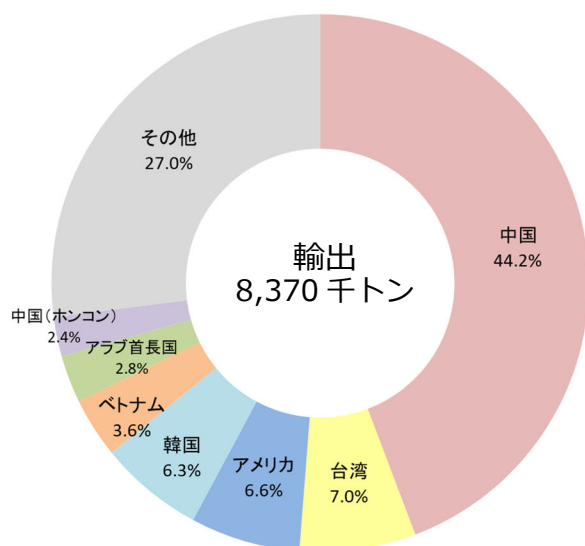
輸移出…ゴム製品（前年比+18.2万トン）や二輪自動車（同+10万トン）の増加等
 輸移入…完成自動車（同▲9.3万トン）や製造食品（同▲6.6万トン）の減少等

(3) 外国貿易 【18,619 千トン】

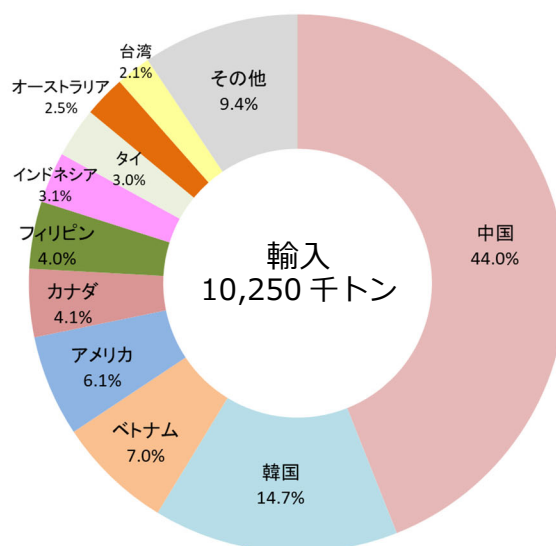
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約 6 割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位：千トン)

輸 出						輸 入					
順位	品 種	取扱量	主な輸出相手国			順位	品 種	取扱量	主な輸入相手国		
1	完成自動車	※ 4,145	中国	台湾	韓国	1	家具装備品	1,391	中国	ベトナム	韓国
2	ゴム製品	1,086	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア	2	衣服・身廻品・はきもの	836	中国	ベトナム	韓国
3	産業機械	459	中国	ベトナム	韓国	3	電気機械	744	中国 (ホンコン)	タイ	
4	再利用資材	390	台湾	ベトナム	韓国	4	動植物性製造飼肥料	669	韓国	アメリカ	オーストラリア
5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	274	中国	台湾	韓国	5	麦	605	カナダ	アメリカ	オーストラリア
6	自動車部品	250	アラブ首長国	マレーシア	フィリピン	6	野菜・果物	555	フィリピン	中国	韓国
7	金属くず	218	韓国	マレーシア	台湾	7	製造食品	417	中国	韓国	タイ
8	化学薬品	188	中国	韓国	アメリカ	8	自動車部品	400	ベトナム	中国	韓国
9	二輪自動車	171	ベルギー	アメリカ	フランス	9	その他日用品	356	中国	韓国	ベトナム
10	水産品	125	ナイジェリア	中国	ベトナム	10	木製品	333	中国	マレーシア	フィリピン

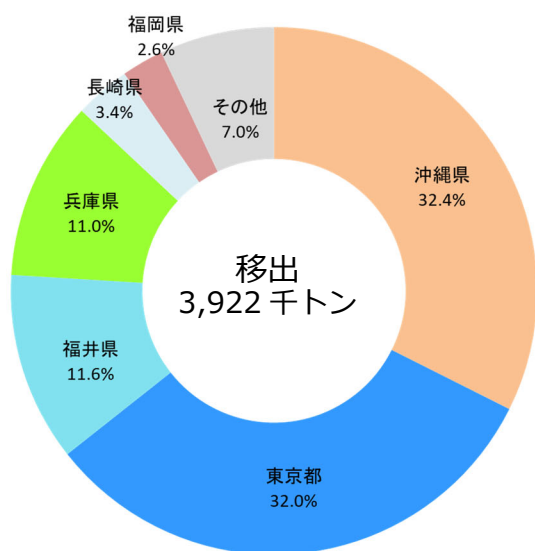
※普通・小型乗用車約 415,000 台分に相当

(4) 内国貿易 【13,615 千トン】

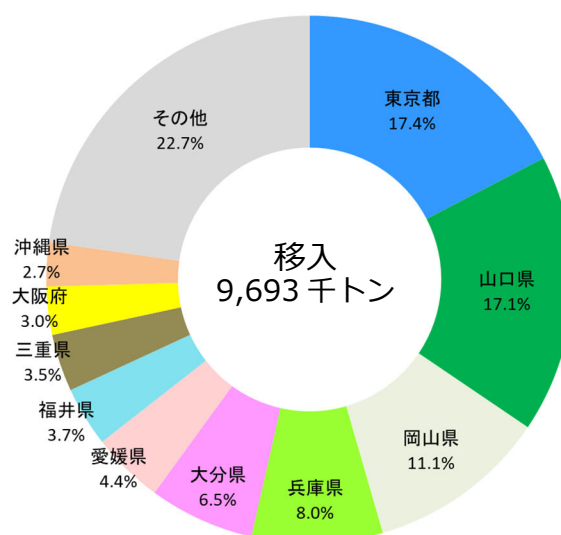
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する東京都や沖縄県との取引が多く、また、移入においては、東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「揮発油（ガソリンなど）」や「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-3】

(単位：千トン)

移 出				移 入			
順位	品種	取扱量	主な移出相手都道府県	順位	品種	取扱量	主な移入相手都道府県
1	その他輸送機械	626	東京都 福井県 兵庫県	1	揮発油	1,612	岡山県 山口県 愛媛県
2	取合せ品	520	沖縄県 東京都 長崎県	2	その他の石油	1,528	山口県 岡山県 大分県
3	完成自動車	※1 486	東京都 沖縄県 兵庫県	3	砂利・砂	1,491	海上採取 長崎県 福岡県
4	製造食品	230	沖縄県 長崎県 兵庫県	4	完成自動車	※2 1,247	東京都 三重県 沖縄県
5	鋼材	184	沖縄県 兵庫県 -	5	セメント	512	山口県 福岡県 佐賀県
6	その他日用品	175	沖縄県 長崎県 福井県	6	鋼材	434	大阪府 岡山県 兵庫県
7	とうもろこし	163	福岡県 鹿児島県 広島県	7	取合せ品	309	東京都 沖縄県 福井県
8	ゴム製品	135	兵庫県 福井県 東京都	8	動植物性製造飼肥料	246	兵庫県 福井県 岡山県
9	金属製品	133	東京都 沖縄県 福井県	9	重油	235	山口県 大分県 岡山県
10	麦	125	香川県 岡山県 広島県	10	米	224	東京都 宮城県 -

※1 普通・小型乗用車約 49,000 台に相当

※2 普通・小型乗用車約 125,000 台に相当

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和3年港湾統計速報値】

約58万2千人

外国航路：0人、内国航路：約58万2千人

（1）船舶乗降人員数の推移

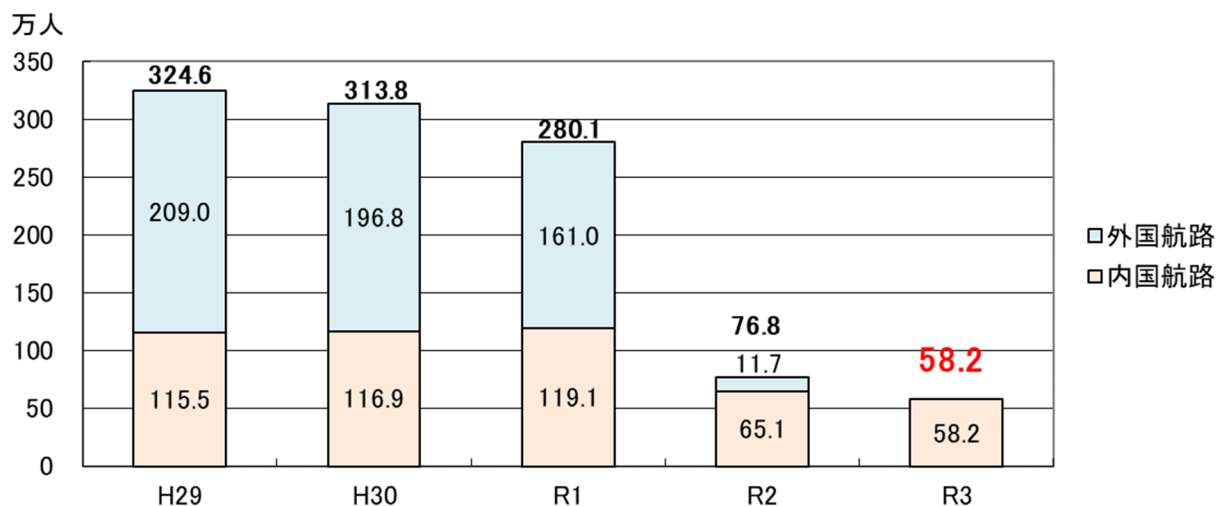
外国航路、内国航路とも、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等により、前年より大幅に減少している。

【表1】

（単位：人）

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減（R3/R2）	
					人数	人数	前年比
博多港全体	3,245,514	3,137,545	2,800,804	767,927	581,888	▲ 186,039	75.8%
外国航路	2,090,345	1,968,427	1,609,678	116,901	0	▲ 116,901	皆減
内国航路	1,155,169	1,169,118	1,191,126	651,026	581,888	▲ 69,138	89.4%

【グラフ1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

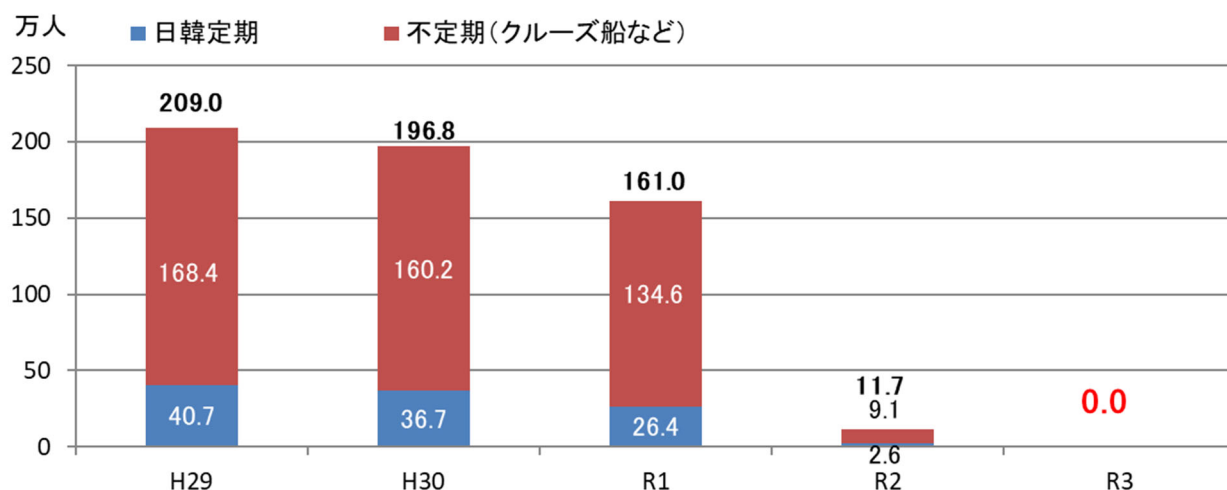
【令和3年港湾統計速報値】

乗降人員数：0人

（1）外国航路船舶乗降人員数の推移

定期航路、不定期航路ともに、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限により、それぞれ乗降人員数が0となっている。

【グラフ2】



【参考：国内上位5港の推移】

【表2】

(単位：人)

順位	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数
1	博多港	2,120,035	博多港	2,090,345	博多港	1,968,427	博多港	1,609,678	博多港	116,901
2	長崎港	1,044,154	長崎港	1,538,571	長崎港	1,394,392	那覇港	1,347,776	那覇港	76,595
3	那覇港	761,298	那覇港	969,481	那覇港	1,217,201	長崎港	1,091,761	長崎港	69,637
4	比田勝港	362,026	八代港	573,962	比田勝港	632,842	石垣港	581,023	石垣港	36,560
5	鹿児島港	344,469	比田勝港	515,506	鹿児島港	533,180	平良港	522,529	比田勝港	23,580

※国土交通省「港湾統計（年報）」より

※令和3年は未公表

3. クルーズ船の寄港回数

【令和3年速報値】

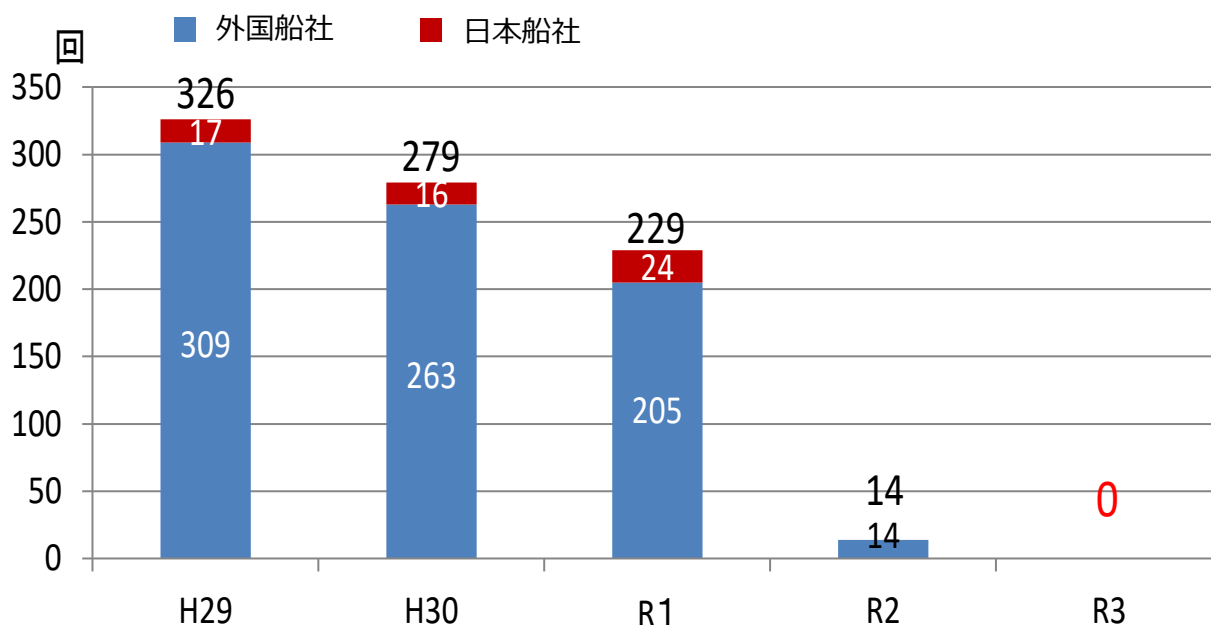
寄港回数：0回

(1) クルーズ船の寄港回数の推移

平成29年3月より中国から韓国への団体旅行が事実上禁止され、中国発のクルーズ船は1回のツアーで日韓2か国を回ることができなくなり、商品の魅力が薄れたことや、中国クルーズ市場の急拡大後の調整局面が続き、中国への配船が減少したことに伴い、近年、寄港回数が減少傾向にあった。

令和3年は新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ船の寄港がなかった。

【グラフ3】



市営渡船の経営状況

< 航路別収支 >

(単位：千円)

区分		令和4年度 当初予算(案)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	80,420	271,041	55,316	23,991	430,768
	国・県補助金	0	0	98,686	58,043	156,729
	計	80,420	271,041	154,002	82,034	587,497
歳出	運航経費	369,108	371,185	246,300	146,617	1,133,210
運航収支		▲ 288,688	▲ 100,144	▲ 92,298	▲ 64,583	▲ 545,713
公債費(市債償還分)等		22,178	44,827	57,852	3,726	128,583
繰入金		310,866	144,971	150,150	68,309	674,296

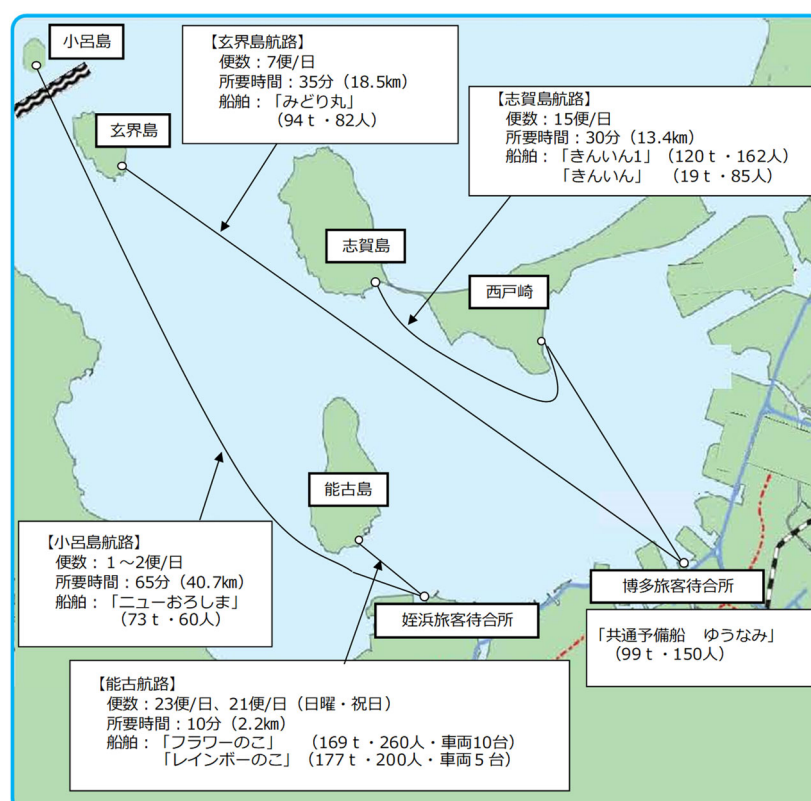
< 取り組み状況 >

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、生活航路として、地元の方々に安心してご利用いただけるよう、引き続き感染症対策を徹底するとともに、収束後は、各航路における観光利用の促進に努め、増収増客を目指す。

◆具体的な感染症対策の取り組み

- ・待合所、船内客室の換気及び座席、手すり等の消毒
- ・乗船時のマスクの着用、手指アルコール消毒の呼びかけ
- ・多客時の増便による船内の混雑解消
- ・QRコード決済の拡充 など

< 航路概要図 >



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和3年港湾統計速報値】

入港隻数：24,160隻

総トン数：約5,153万総トン

外国航路：2,594隻・約3,173万総トン、内国航路：21,566隻・約1,979万総トン

（1）入港隻数及び総トン数の推移

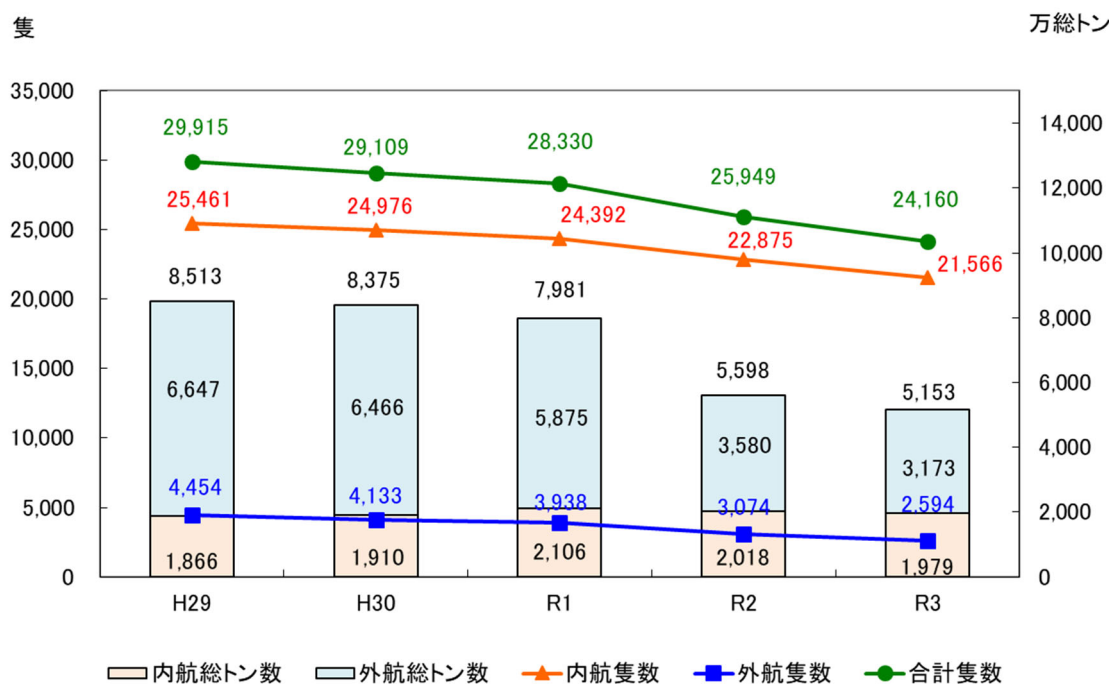
入港隻数、総トン数ともに、近年減少傾向にある。令和3年は客船やフルコンテナ船等の減少により、入港隻数、総トン数ともに減少している。

【表1】

（単位：隻、総トン）

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減（R3/R2）	
					数量	数量	前年比
入港隻数	29,915	29,109	28,330	25,949	24,160	▲ 1,789	93.1%
外国航路	4,454	4,133	3,938	3,074	2,594	▲ 480	84.4%
内国航路	25,461	24,976	24,392	22,875	21,566	▲ 1,309	94.3%
総トン数	85,134,616	83,754,376	79,805,066	55,983,314	51,525,150	▲ 4,458,164	92.0%
外国航路	66,470,908	64,657,295	58,748,120	35,802,548	31,730,983	▲ 4,071,565	88.6%
内国航路	18,663,708	19,097,081	21,056,946	20,180,766	19,794,167	▲ 386,599	98.1%

【グラフ1】



第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和3年速報値】

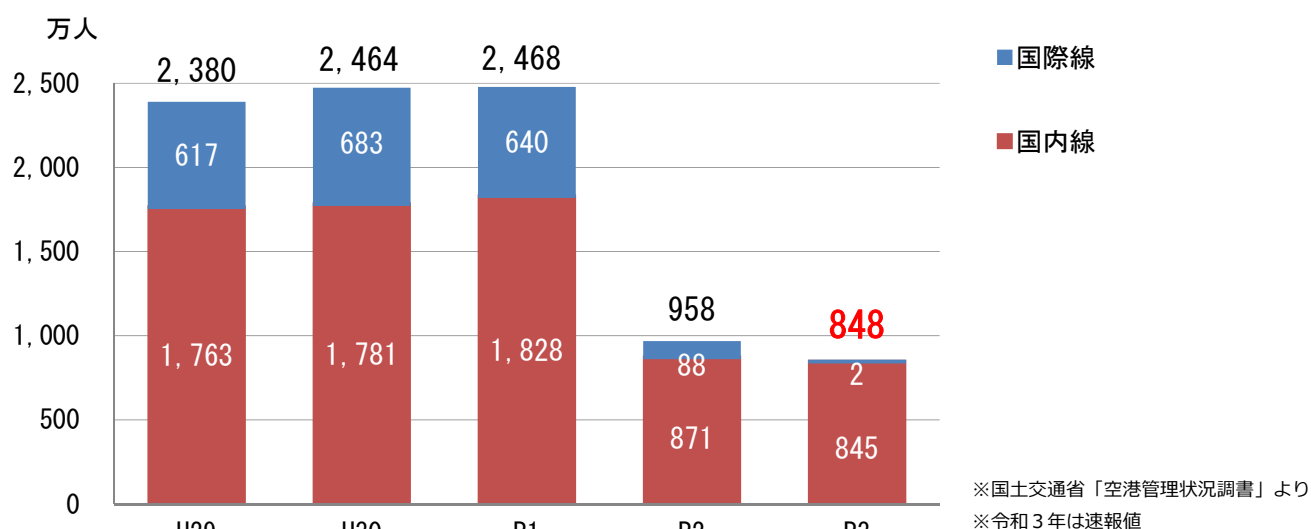
乗降客数：約 848 万人

国際線：約 2 万人 国内線：約 845 万人

(1) 乗降客数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少している。

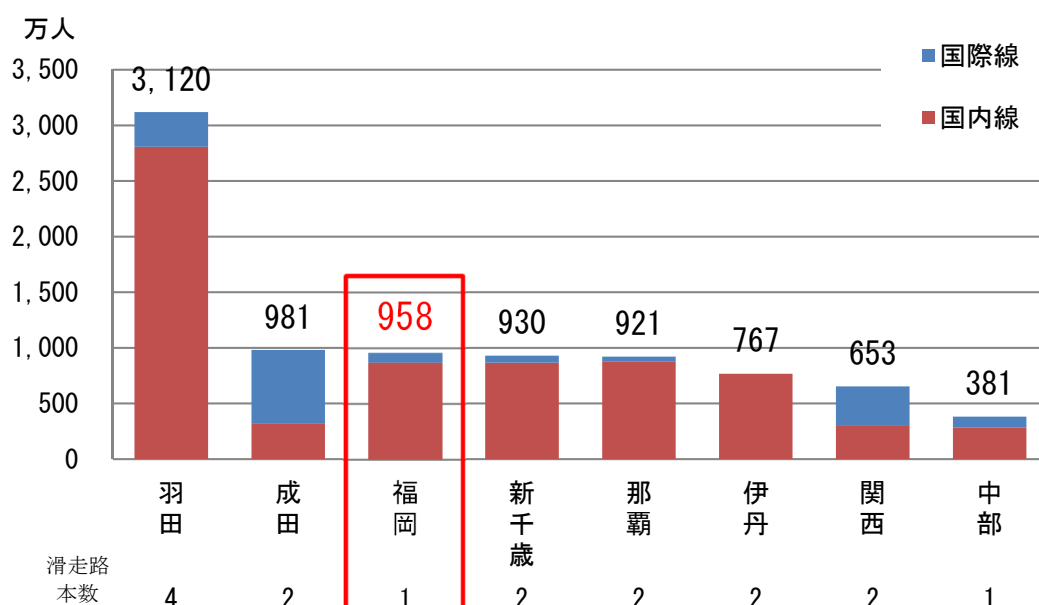
【グラフ 1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】

福岡空港の乗降客数は国内第3位である。

【グラフ 1-2】



2. 貨物取扱量

【令和3年速報値】

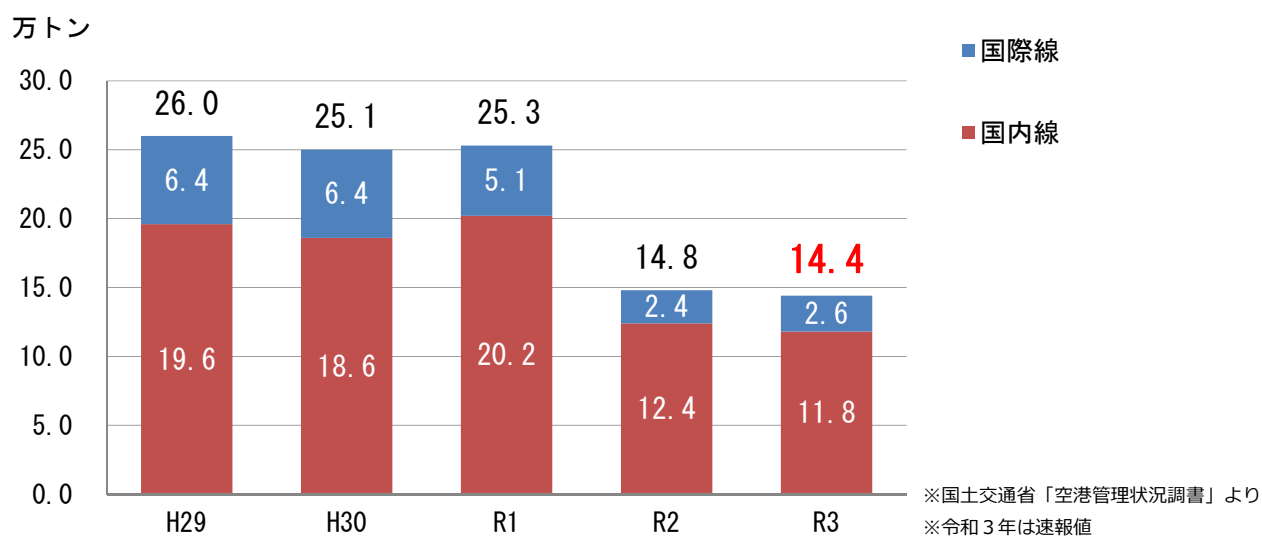
貨物取扱量：約 14 万 4 千トン

国際線：約 2 万 6 千トン 国内線：約 11 万 8 千トン

(1) 貨物取扱量の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少している。

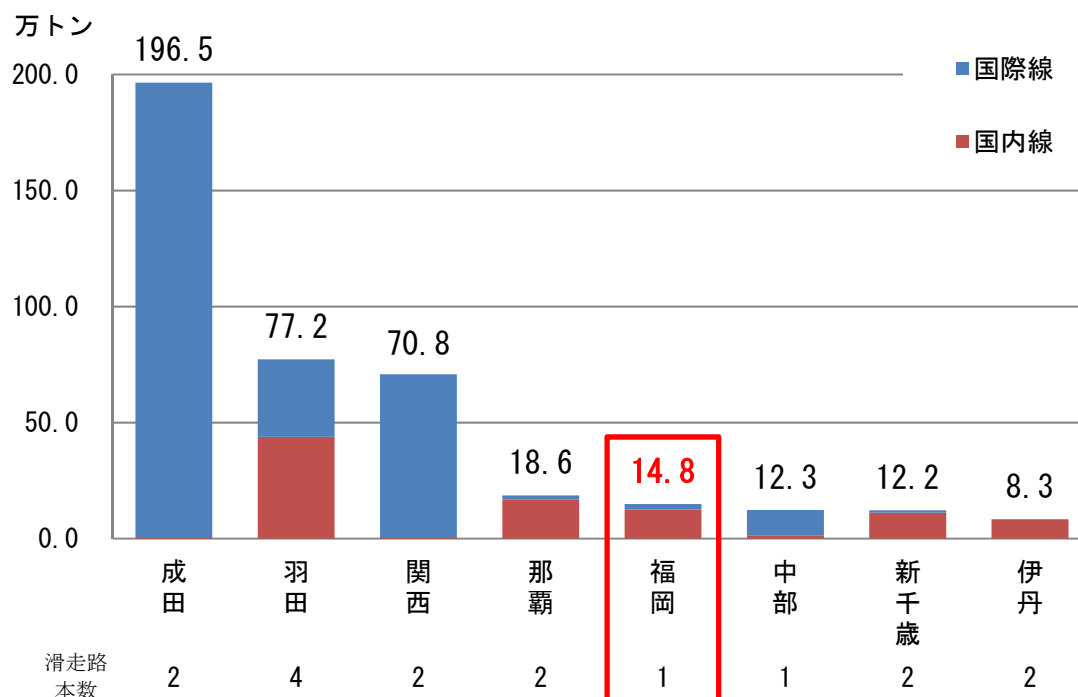
【グラフ 2-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ 2-2】



3. 発着回数

【令和3年速報値】

発着回数：約 10 万 8 千回

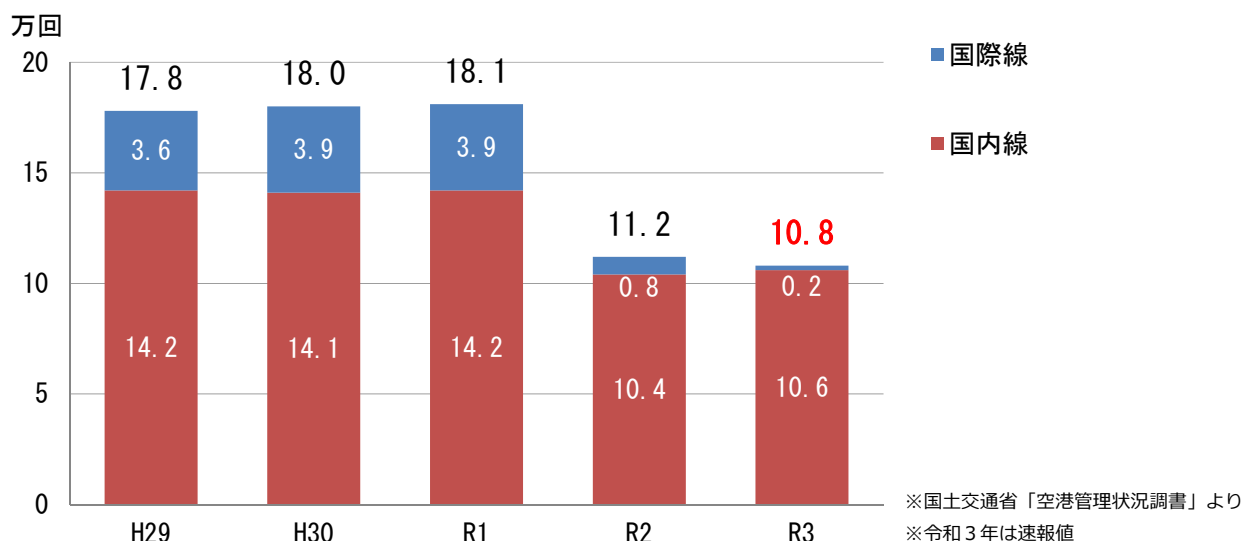
国際線：約 2 千回

国内線：約 10 万 6 千回

(1) 発着回数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少している。

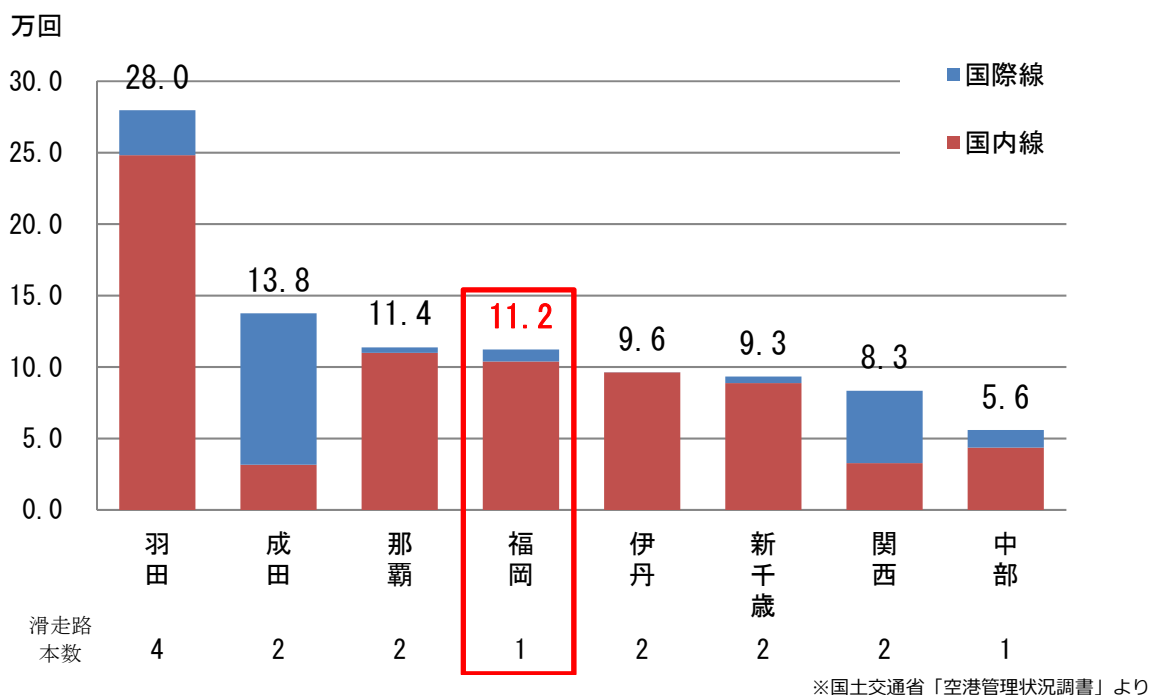
【グラフ 3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和2年）】

福岡空港の発着回数は国内第4位である。

【グラフ 3-2】



4. 路線状況

令和4年2月現在で、路線数は国際線が19路線、国内線が27路線となっている。
また、発着便数は国際線が週672便、国内線が1日364便となっている。

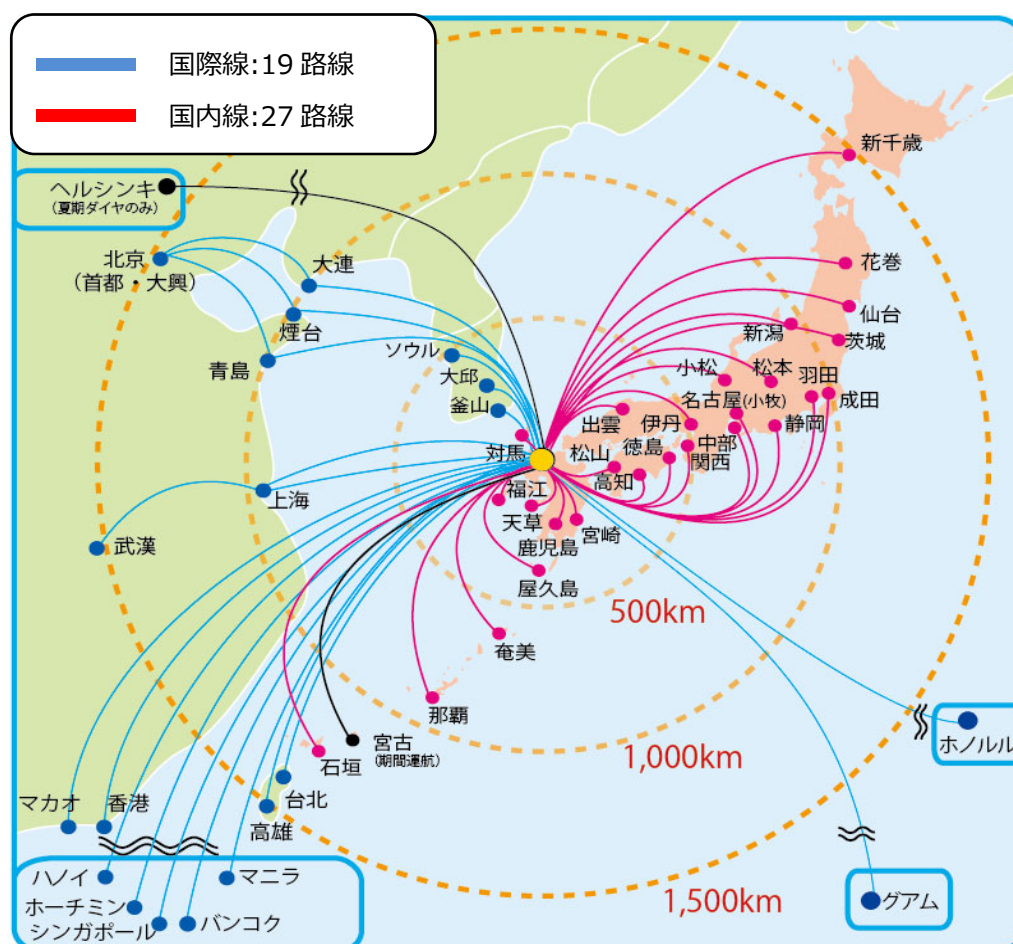
なお、新型コロナウイルス感染症の影響により運休・減便が発生している。

福岡空港の時刻表（2月）を基に福岡市港湾空港局集計

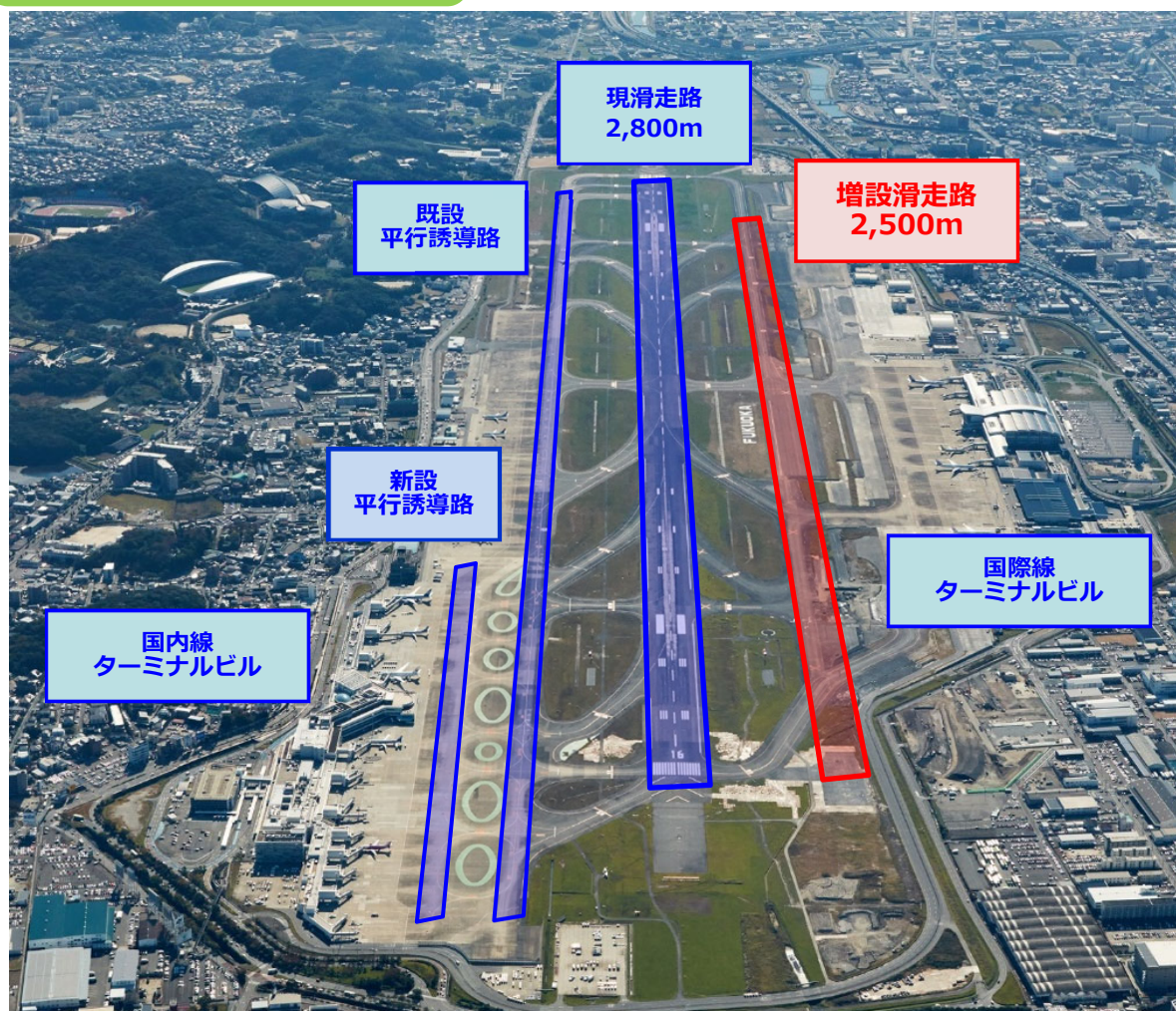
区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行 先
国際線	19	672 (便/週)	25	ソウル、釜山、大邱、上海、武漢、北京、大連、 青島、煙台、台北、高雄、香港、マカオ、 マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、 シンガポール、グアム、ホノルル
	※時刻表上「運休」の路線数等 15	648 (便/週)	17	※下線部は時刻表上「運休」 計20都市（8カ国・地域）
国内線	27	364 (便/日)	12	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣 計27空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く

福岡空港路線図（令和4年2月現在）



福岡空港の機能強化



滑走路増設事業

航空機混雑の抜本的解消や将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和 7 年 3 月末供用開始予定)

平行誘導路二重化

空港の利便性向上や航空機の慢性的な遅延の緩和等を目的として、平行誘導路の二重化を実施(令和 2 年 1 月 30 日完了)

福岡市・福岡国際空港㈱協議会の開催実績（令和３年１０月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場（福岡市・福岡国際空港㈱協議会）を設置

開催日・出席者	主 な 協 議 内 容
令和３年１１月３０日（協議会） 【福岡市】 市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他 【運営会社】 社長、副社長 経営企画本部長 他	・市から、今年度で開催した幹事会の概要を報告。 ・運営会社から、2021 年度中間決算について報告があり、厳しい経営環境が続いているが、直近の資金繰りについては見通しが立っていること、また、需要回復に向けた施策を行っていくとの説明。 ・市から、来年度事業計画への反映も含め、今後の空港運営にあたっては、未就航路線の誘致など航空ネットワーク強化を依頼するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策も含めた安全・安心で、地域に寄り添った空港運営の継続を要請。 ・運営会社から、これまでいただいた様々な意見を来年度の事業計画や今後の空港運営に反映させていく旨の発言があった。 ・カーボンニュートラルの実現に向けて、福岡市から空港における取り組みを推進するよう要請し、運営会社から 2050 年のカーボンニュートラルに向けて中長期的な計画を策定していく考えである旨の発言があった。